

イデックスオイルレポート ~For a month~

2021年11月1日作成 (株)新出光

【月次概況】

●第1週、10/1のWTI原油は、先週比1.9ドル高の75.88ドルとなりました。国際エネルギー機関(IEA)は、石炭や天然ガスの需要が新型コロナウイルス感染拡大前の水準を回復したと報告しました。米国のシェール業界は支出を抑制してきたため急激な供給拡大に動くことは困難な状況です。中国では、石炭の値上がりによる電力不足が深刻化しておりそれを補うため石油などの輸入量を増やす方針を表明しました。またOPECプラスの一部の国は、設備投資不足などから生産目標を達成できておらずエネルギーをめぐる供給逼迫懸念が今後も続く見通しとなっています。

●第2週、週末10/8のWTI原油は、先週比3.47ドル高の79.35ドルとなりました。OPECプラスは、4日テレビ会議での閣僚級会合で11月以降の産油量を協議し、毎月日量40万バレル増産する従来の方針維持を決めました。世界的な景気回復とエネルギー供給不足を背景に需給が逼迫する中、買い優勢の流れが続きました。欧州市場の天然ガス価格高騰を受けて、エネルギー源を原油に切り替える動きが加速しています。

●第3週、週末10/15のWTI原油は、先週比2.93ドル高の82.28ドルとなりました。国際エネルギー機関(IEA)は、月報で2021年及び22年の世界の石油需要予想を上方修正しました。また中国や欧州を中心とした石炭・天然ガスの価格高騰に加え北半球で暖房需要が強まる冬の到来を迎え原油への切り替えが加速するとの見通しを示しました。需給バランスは依然として引き締まり傾向にあり原油は買われました。

●第4週、週末10/22のWTI原油は、先週比1.48ドル高の83.76ドルとなりました。新型コロナウイルス禍からの世界経済の回復に伴い原油需要が急増しています。中国や欧州・インドで石炭や天然ガスの高騰を受けて原油への燃料の切替が促進される一方石油輸出国機構(OPEC)が主導する有力産油国は大幅増産に対して慎重姿勢を堅持しています。北半球で暖房需要が本格化する冬を迎えるため、原油供給不足が深刻化するとの不安が、原油相場上昇に拍車をかけています。

●第5週、週末10/29のWTI原油は、先週比0.19ドル安の83.57ドルとなりました。新型コロナ禍からの経済活動再開が世界的に進みエネルギー需要が急速に高まっている中、OPECプラスは大幅な増産を見送っておりWTI原油は、84.65ドルとなり2014年10月以来7年ぶりの高値を更新しました。バイデン大統領が30日にローマで開かれる20か国・地域首脳会議(G20)サミットに合わせ、イラン核合意をめぐる欧州の首脳と協議することが判明しました。米国の対イラン制裁の解除につながればイラン産原油が国際市場に再び流入するとの思惑が重しとなり原油は売られました。また週央に発表された米原油在庫が、大幅な積み増しとなったことも相場の下押し要因となりました。

	10月平均	WTI原油	81.22ドル	前月比	9.68ドル	為替 1ドル	114.11円	前月差	2.94円
--	-------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	-------

日付	変動幅	ENEOS	変動幅
10/1~10/6	+1.5	ENEOS	+1.5
10/7~10/13	+2.0		+2.0
10/14~10/20	+3.0		+2.5
10/21~10/27	+2.5		+3.0
10/28~10/31	+0.5		+0.5

【単位:円/KL】

メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2021年7-9月C重油決定価格	63,070	65,070	(63,070(メニュー)+2,000(プレミアム))
	2021年10-12月C重油仮価格	66,800	69,340	(66,800(メニュー)+2,540(プレミアム))
	2021年10-12月C重油決定価格			(メニュー)+2,540(プレミアム)

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	適合油価格		A重油
	2021年7-9月C重油決定価格	69,400	73,300
	2021年10-12月C重油仮価格	74,300	
	2021年10-12月C重油決定価格		

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円/kl	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	21/9	9桁速報	51,009	73.81	109.87	27
	21/10	最終予測	52,092	74.36	111.37	1,083
	21/11	展望	56,558	81.74	110.00	4,466
	21/12	展望	59,089	84.34	109.50	2,531

【次世代エネルギー】<次世代バイオディーゼル燃料サステオ>

サステオは、使用済食用油と微細藻類ユーグレナ(和名:ミドリムシ)などを主原料とし、食糧との競合や森林破壊のリスクが低いという点で持続可能性に優れた次世代バイオディーゼル燃料です。分子構造が軽油と全く同じ(JIS規格・品確法上ともに軽油に該当)ことから、軽油を使用している既存車両のエンジンに使用可能であり、水素や電気といった代替エネルギーへの移行に際して課題となる多大なインフラコストを必要とせず、既存インフラを活用しながら効率的に普及拡大することが可能になるとされています。ユーグレナ社は、2018年10月のバイオ燃料実証プラントで製造したバイオ燃料を陸・海・空における移動体に導入し、2030年までにバイオ燃料を製造・使用するサポーターを日本中に広げること、バイオ燃料事業を産業として確立することを目標に掲げています。

[出典①<https://www.kankyo-business.jp/news/029909> ②<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000216.000036462.html>]

【11月価格変動要因】

●需要面: 欧州やアジアでの天然ガス供給不足が、原油需要にも波及しています。サウジアラムコCEOは、天然ガス不足により石油需要が50万BD程度増加との見方を示しました。ラニーニャ現象発生の可能性も報じられており、今冬は需給タイト化が継続する見込みです。

●供給面: 11/4のOPEC+会合では従来方針通り40万BD減産緩和維持の見込みです。天然ガス価格も落ち着きを見せて始めておりOPECが追加増産することは考えづらい状況です。

●在庫面: メンテ期間に突入し在庫は少ないながらも積み上がり始めています。ただし原油在庫は、過去5年で最低水準であり余剰は少ないです。

●地政学: イランとEUの核合意復帰に向けた会合が再開予定です。欧州のエネルギー高によって合意の妙味は日増しに高まっていますが、ハードルも高く平行線が続く見込みでイラン産原油供給増加までは時間がかかる見通しです。

<11月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	90	87
Average	83	81
Low	75	72

日付	国	11月経済指標カレンダー	日付	国	11月経済指標カレンダー
1	米	10月ISM製造業景況指数	16	欧	7-9月期 四半期域内総生産(GDP、改定値)
3	米	10月ADP雇用統計	16	米	10月小売売上高
3	米	10月ISM非製造業景況指数	17	欧	10月消費者物価指数(HICP、改定値)
3	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)終了後政策金利発表	24	米	7-9月期 四半期実質国内総生産(GDP、改定値)
3	米	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長定例記者会見	24	米	10月個人消費支出(PCEデフレーター)
5	米	10月非農業部門雇用者数変化	24	米	10月新築住宅販売件数
5	米	10月失業率	24	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨
5	米	平均時給	30	欧	11月消費者物価指数(HICP、速報値)
10	米	10月消費者物価指数(CPI)			

当レポートは、情報提供のみを目的としておりますのでお取引の判断については、御自身で行って頂くようお願い致します。